

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4074500259		
法人名	医療法人社団 宗正会		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地 (電話番号)	福岡県福津市高平11-15 (電話) 0940 - 42 - 1708		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月22日	評価確定日	平成21年12月8日

## 【情報提供票より】(平成21年10月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 11 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.8 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 一階部分		
------	----------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 135,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり 800 円		

### (4) 利用者の概要 ( 10月13日現在 )

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 81 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東福岡病院・しまだ歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「心からの笑顔」と「住まい」という思いが込められた名前を持つ、グループホーム「すまいる」は、閑静な住宅地の中に位置しており、開設して9年目を迎えている。「和」を基調とした建物は、十分な広さを持つ余裕ある空間作りがなされており、木の温もりを感じる家庭的な雰囲気に包まれている。法人として多様な医療・福祉事業を展開しており、近接する母体医療法人との連携を活かした日々の健康管理の充実、入居者・家族の安心へとつながっている。また職員育成にも法人としての充実した研修体制が整備されており、質の向上に向けた積極的な取り組みがある。入居者の方々の、穏やかな、豊かな表情からは、日々の暮らし振りをうかがい知ることができ、本人本位の支援に努めていることが伝わる。今後は更に地域との連携を強化し、福祉拠点としての役割りを担っていくことが期待される事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題として、運営推進会議の開催状況や災害時の地域との協力体制の構築の必要性が指摘されている。継続しての取り組み事項となるが、運営推進会議の有効活用を図り、その中で地域への働きかけを行っていくことを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたっては、項目を各職員で分担し、全職員で話し合いながら集約されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族会会長・地域住民(児童委員)・福津市職員・母体法人院長等の出席にて、状況報告や「食」への取り組みを報告している。現状として年2回の開催となっており、運営推進会議の定期開催に向けて、継続した働きかけが求められる。出席メンバーを幅広く求め、地域に関われた事業所としてより積極的な働きかけに期待したい。日常的な交流や災害時の協力体制の構築等、地域への窓口として活用して欲しい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	3ヶ月に1回、家族会が開催されており、家族同士の率直な意見交換の場として有効に活用されている。法人院長の参加もあり、医療情報等の情報発信も行われている。信頼される法人として、苦情や意見が合った場合には、助言として大切に受け止め、真摯な対応に努めていきたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の掲示板にホームでの行事(映写会・花火大会等)を案内しており、参加を得ている。近隣の託児所の子供達が歌や踊りを披露してくれたり、調理や習字のボランティアの来訪もある。法人駐車場を地域の祭り(竹灯まつり)の際には開放しており、入居者の方々も竹灯に絵を飾ったり、夜店での買い物や食事、ゲームを楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	誠意・安心・信頼「私たちは地域の多様なニーズに対応できる保健・医療・福祉の一貫したケアをめざします。」という法人理念を基に、事業所独自の理念がつけられている。今後はホームとして地域密着型サービスの意義を踏まえた、具体的な方向性を示していくことにも期待したい。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	事業所独自の理念「心から笑顔が出る安心の自分があり、安全な環境の中で安楽な生活が営まれる事を目的とし、安心・安全・安楽を提供いたします。」を職員の名札に明示している。笑顔のある安心・安全・安楽のある日々の暮らしとなるよう、常に意識し取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の掲示板にホームでの行事(映写会・花火大会等)を案内しており、参加を得ている。近隣の託児所の子供たちが歌や踊りを披露してくれたり、調理や習字のボランティアの来訪もある。法人駐車場を地域の祭り(竹灯まつり)の際には開放しており、入居者の方々も竹灯に絵を飾ったり、夜店での買い物や食事、ゲームを楽しんでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては、項目を各職員で分担し、全職員で話し合いながら集約されている。前回課題として指摘のあった運営推進会議の定期開催については、継続しての課題となっている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、家族会会長・地域住民(児童委員)・福津市職員・母体法人院長等の出席にて、状況報告や「食」への取り組みを報告している。現状として年2回の開催となっている。		運営推進会議の定期開催に向けて、継続した働きかけが求められる。出席メンバーを幅広く求め、地域に開かれた事業所としてより積極的な働きかけに期待したい。日常的な交流や災害時の協力体制の構築等、地域への窓口として活用して欲しい。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

## グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	福津市の主催する認知症啓発事業において、認知症ケアに関する発表を行う等、行政と共に地域に向けての情報発信に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	外部研修や法人内での研修会に参加し、伝達研修(DVD)を行なっている。ホームとしても勉強会を行っており、必要となった場合に活用に向けての支援ができるよう知識を深めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	行事予定や報告を案内する便りと、日々の暮らしの状況を個別に報告する「すまいるだより」を3ヶ月に1回発行している。家族来訪時や家族会開催時には、日々の様子や行事報告、金銭管理についての確認を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	3ヶ月に1回、家族会が開催されており、家族同士の率直な意見交換の場として有効に活用されている。法人院長の参加もあり、医療情報等の情報発信も行われている。信頼される法人として、苦情や意見が合った場合には、助言として大切に受け止め、真摯な対応に努めていきたいと考えている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	法人内での異動は殆ど行なわれていない。最近では離職も発生しておらず、安定している。産休等で休む場合には家族にも報告し、十分な引継ぎを行い、またベテラン職員のフォローによりダメージとならないよう配慮している。法人として託児所もあり、働きやすい環境が整備されている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	法人としての採用となり、年齢や性別を理由とする排除は行なっていない。本人・家族とのコミュニケーションを大切にできる人を求めている。年2回の面談、職員の自己評価提出等を行い、働きやすい環境づくりやモチベーションの確保につなげている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

## グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人として、事業所として、抑制廃止を宣言しており、全職員に周知徹底している。3ヶ月毎に法人内で行なわれる「抑制廃止対策委員会」に出席し、抑制や高齢者虐待防止についての研修も行なわれ、意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修(グループホーム協議会・社会福祉協議会等)に参加し、伝達研修により職員間の共有が図られている。法人内研修が充実しており、また資格取得への支援も行われている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入しており、情報交換や他施設の見学等、サービスの向上を目指して取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族との話し合いの中で、不安や思いを受け止めながら状況を把握し、見学・体験を通じて、少しずつ馴染みの関係を築きながら安心して入居できるよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で、入居者一人ひとりの「喜び」や「楽しみ」等に寄り添い、またその場面づくりにも努めている。年長者である入居者の方々から、生活の知恵や言葉の意味など、教えてもらうことも多い。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

## グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用しながら、詳細かつ丁寧なアセスメントが実施されており、情報の更新も行われている。日々の暮らしの中での会話や表情、行動などからその思いを把握するよう努めている。今後は更に本人の全体像に近づくためにも、生活歴や趣味等の把握の充実にも期待したい。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の思いが反映された、本人主体の介護計画が作成されている。詳細なアセスメント情報・3ヶ月に1回のモニタリング・毎月行われる個別処遇の話し合いを通じ、職員間で情報を共有し、介護計画作成に活かしている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1回、モニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。状況の変化に応じて、随時、関係者と話し合いを行い、現状に即した計画となるよう努めている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	状況に応じた受診介助や、医療機関との連携による早期退院への働きかけが行われている。法人内の連携を活かし、職員育成や専門的な立場からのアドバイスを、サービスの質の確保につなげている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	月一回の定期的な内科受診の際には、家族とともに付き添い、医師・家族のかかわりを保ちながら、情報を共有している。隣接して歯科医院があり、口腔ケア指導等の協力を得ている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

## グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期のあり方について、家族会等で医療関係者を交えて話し合いが行われており、家族の協力や他の入居者の方々へのメンタル面への配慮等について話し合いを重ねている。終末期ケアについての研修に参加し、伝達により職員間での情報の共有が図られている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	毎月行われるミーティング等において、入居者一人ひとりの尊厳を傷つけないケアやスピーチロックについての確認・話し合いが行われている。個人情報についても取り扱いに配慮した管理・保管が行われている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	それぞれのライフスタイルや習慣、その日の状況にあわせて、起床時間や食事の時間等に柔軟な対応に努めている。朝早く行動する方、自室で過ごしたい方など、さりげなく見守りを行いながら一人ひとりのペースにあわせた支援を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事づくりに地域のボランティアの来訪がある。入居者・職員が同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をする姿があった。個々の嗜好を把握し、魚が苦手な方には代わりとなるものを個別に提供するなど柔軟な支援が行われている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	ある程度の時間帯の設定はあるが、希望や状況にあわせて、毎日の入浴にも対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

## グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎朝、配達される食材の受け取りを日課とされている方や、掃除・洗濯ものたたみを手伝ってくれる方、調理準備に参加している方等、それぞれの力を発揮できる場面づくりを支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や希望に応じて、散歩や買い物に出掛けており、散歩の途中で地域の方から庭の花などをいただくこともある。毎週日曜日は「買い物の日」としており、近くのコンビニエンスストアに出掛けている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中、鍵をかけないケアを実践している。プライバシーに配慮しながら所在確認を行い、見守り・より添いながら自由に過ごせるよう支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を定期的実施しており、入居者も参加している。運営推進会議等を活用し、今後も地域住民との協力体制の構築に向けた働きかけを継続して欲しい。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事・水分摂取量を確認し、健康チェック表に記録している。一人ひとりの状態にあわせて形状を変えたり、嗜好にあわせて個別のメニューに対応するなど、柔軟な支援が行われている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

## グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	和を基調とした造りとなっており、十分な広さを持つ余裕ある室内空間が広がる。中庭に面したリビングは天井も高く、天窗や大きな梁のある開放的な空間となっている。中庭にある木々(もみじ・柿等)や芝生が、四季折々の色を見せ、ソファや椅子が配置され、それぞれがくつろげる場所が確保されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入り口には、部屋ごとに形の違う照明と各担当者の写真が設置してある。和・洋の2タイプの部屋があり、洗面台が設けられている。出窓のある明るい空間には、机・椅子・ソファ・箆笥等、使い慣れた物が持ち込まれており、その人らしい部屋づくりがなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			